



アイスクリーム作りに挑戦



えさやり体験



搾乳体験

畜産協会リレー (公社) 京都府畜産振興協会

# 「京都の畜産」を消費者に伝える

「京都の畜産」は、全国でのシェアは大きくないが、府内各地では地域と調和の取れた特色のある経営が行われている。

そこで、消費者に畜産についての理解を深めてもらうため京都府農林水産技術センター畜産センター(以下、「畜産センター」)と連携し、今回の取り組みを行った。

開催に当たっては、今後永く「京都の畜産」に関心を持ってもらいたい小中学生とその保護者へ呼びかけるため、畜産センター近隣の学校の理解と協力を得た。

内容としては、搾乳や乳製品加工(アイスクリーム作り)などの体験型の企画とともに畜産ミニ教室やクイズラリーなどを開催し、約200人の参加者であった。

搾乳体験は小中学生には好評で、牛の大きさに圧倒されながら恐る恐る体験し、「乳房は思ったより硬かった。うまく搾れて面白かった。」などの感想が聞かれた。その後は、えさやり体験などをしながら、家畜の特徴や

排せつ物処理などについての率直な疑問にも答え畜産への理解を深めることができた。

ミニ教室では、肉牛、乳牛、鶏の畜種ごとに、畜産農家とJA等の指導者の並々ならぬ努力により「京都の畜産」の品質と安全性が確保されていることや、畜産が自給飼料生産や放牧を通して資源循環のサイクルの中で環境への負荷をできるだけ少なくしながら営まれていることを説明し、参加者の共感を得ることができた。

今回の企画を通じ、畜産は生命と直接向かいあい、畜産と触れ合うことは食育としても有効であり、また、「京都の畜産」の応援団を増やすことは、畜産の担い手育成や畜産農家が幅広いつながりの中で安定した経営が続けられる一助にもなり得ると実感した。

京都府畜産振興協会では、今後とも、このような取り組みにより「京都の畜産」の振興に貢献したい。

(公社) 京都府畜産振興協会 事務局長 津田 義郎



乳牛ミニ教室  
(この牛の体重は?)



鶏ミニ教室  
(鶏のえさの量は?)



聴診体験  
(牛もボクもドキドキ)